

審査の結果の要旨

氏名 司馬 蕾

論文題目 Basic Research on Present Status of China's Residential Facilities for the Aged and Thoughts of the Elders -the Overall Image and Internal Diversities-
(中国高齢者居住施設の全体像と多様性—施設の現状と高齢者の意識について—)

本論文は、中国高齢者居住施設の全体像と多様性を調査し把握すること、高齢者の意識について個々の多様性も含め明らかにすること、施設と高齢者の現在の主要な問題と現状に基づいた解決策についての検討をすることを目的として、文献調査と3つの実態調査を行った。

中国は高齢社会に入り、高齢者居住施設はここ10年の間に急増したが、高齢者居住施設の種類や定義ははっきりせず、十分な経験もなく未熟な計画・設計が行われているのが現状である。一方、現在の中国高齢者居住施設の研究は、限られた地域の一施設のケーススタディに基づく特定の問題についてのデザイン原理に関するものが多く、現在の施設の状況と利用者の要求に基づく基本的な研究は行われていないことが背景にある。

文献調査では主に先進的な諸外国での高齢者施設の発展の経験について調査した。

実態調査は、上海における質問紙調査、全国的な質問紙調査、およびケーススタディを行った。

上海における質問紙調査は中国において最も先進的で高齢化の進んでいる地域における施設の発展状況の全体像と詳細なイメージを把握することを目的とした。

全国的な質問紙調査は、より広範に施設の地域による違いと、施設に入居する高齢者と自宅に住む高齢者の意識を探ることを目的とした。

ケーススタディは上海の特徴的な3施設について行った。

施設の地域性と多様性として、一般的に、現在の中国の高齢者居住施設は規模が大きくなる傾向にあり、利用者の健康状況に明確な区別はない。多くの施設は2床室が標準的で、個室は非常に少ない。加えて、多くの施設がはじめから自立できる高齢者を対象としているが、多くは同時に実際に介護サービスを提供している。現在、スタッフのおよそ半数が介護ヘルパーであり、異動の率が高いことが施設運営上の大きな問題となっている。

さらに、施設の多様性と地域差について明らかにした。現状の施設の多様性は、規模、空間の快適性、サービス、居住者の年齢によるところが大きい。現在の多くの施設は居住者の健康状況が混在する。さらに、施設の多くが様々な健康状態の混在した居住者を持ちながら、早期の介護施設、高齢者向き賃貸アパートの形であることが明らかになった。

高齢者の意識の調査からは、異なる背景と異なる好みをもつ高齢者の状況が明らかになった。第一に、中国の親と子世代の間の密接な関係が示唆された。同時に、施設に入居する高齢者も在宅の高齢者も施設の介護サービスに大きな関心を持っている。施設での生活に対する態度は、施設入居経験のある高齢者にとって多くは施設に高い満足度を示し、在宅者は強

い防御的姿勢を示した。高齢者には伝統的東洋的家族観が支配的とみられ、多くの高齢者は施設での生活の大きなデメリットとして家族に見捨てられたと世間に見られることも重要視している。

さらに、高齢者の考えは、特に学歴や前職などの個人的な経歴による影響が大きい。一般的に、高学歴な人は、いろいろな財産もあり、より独立しようとし、個人の感覚により重きを置き、施設での生活に心を開き続けている。前職も同じように好みに影響し、頭脳労働の職歴のある人は経済的にも精神的にもより独立しようとする。

現状の主な問題点と解決へ向けた提案として、調査の結果、今日の施設の主な問題点が検討され改善への提案がなされた。第一に、現在の大規模施設のデメリットを改善することを評価し、いくつかの性格のホームが複合した空間が推奨できる。加えて、介護への強い要求を満たすため、公共のサポートへの考え方の変化が期待される。

さらに、調査から施設の要求の地域格差と伝統的東洋的家族観と強い個人主義をもった高齢者の要求も明らかになり、これらを計画において考慮しなければならない。

一方で、施設の空間デザインのために、個室・2床室両者の要求にも適し、活動のための空間を持つセミプライベート室あるいは予備的な空間をもつ個室が提案された。介護の必要な高齢者にとって、今日、「同居介護」は問題ある現象であるが、よくあることととらえられ、新築の平面では介護ルートを配慮し既存の建物では介護ヘルパーのための空間をとれるように改修することが改善点と評価される。

本論文は、現在の中国高齢者居住施設と高齢者の意識について全般的状況と多様性を明らかにし、主要な問題点と可能な改善案を検討した。この成果は、施設と高齢者の要求に基づいた基礎的な知見となるものであり、基準策定やデザインにおける観点を示すものとなる。この成果は今後の比較研究の基礎ともなるものであり、建築計画学の発展に大いなる寄与となりうるものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。